

## Mathieu-Witt systems の初等的・統一的記述

一橋大商 岩崎 史郎  
(Shiro Iwasaki)

今まで多くの人々によって、Mathieu-Witt systems に関する種々の興味深い研究が行われてきたが、まだ研究が十分とは言いかたい面も少なからずあり——たとえば、小さな system  $W_{12}$  と大きな system  $W_{24}$  とはあまり統一的に扱われていないようであり、blocks の正体もどこか不明で、その記述のしかたも必ずしも簡単とはいえないであろう——これらの systems には依然として神秘的で、研究対象としての魅力が漂っていると思われる。

本稿の目的: 従来の研究の一部を整理しながら、Mathieu-Witt systems をできるだけ自然で、統一的かつ初等的に記述する一つの試みをする。特に、全ての blocks を記述する簡単な一つの方法を述べる。

## 記号

$g = \text{素数} \geq 7, \quad g \equiv -1 \pmod{4}.$

$F_g : g \text{ 個の元からなる有限体.}$

$\Omega = \Omega(g) = \{\infty\} \cup F_g : F_g \text{ 上の射影直線.}$

$Q = \{x^2 \mid x \in F_g \setminus \{0\}\}.$

$i \in F_g$  に対し

$Q_i = Q + i,$

$U_i = \{i\} \cup Q_i = U_0 + i.$

$G = PSL(2, g) = \left\{ x \mapsto \frac{ax+b}{cx+d} \mid a, b, c, d \in F_g, ad - bc \in Q \right\}.$

他に、次のような標準的な記号を使う。

$A, B \subset \Omega$  に対し

$A \Delta B = (A \setminus B) \cup (B \setminus A) : A, B \text{ の対称差.}$

$\bar{A} = \Omega \setminus A = \Omega \Delta A.$

$G$  は  $\Omega$  上の置換群であるが、 $A \subset \Omega ; a, b, \dots \in \Omega$  に対し

$A^G = \{A^\sigma \mid \sigma \in G\},$

$G_{(A)} = \{\sigma \in G \mid A^\sigma = A\},$

$G_{a, b, \dots} = \{\sigma \in G \mid a^\sigma = a, b^\sigma = b, \dots\}.$

$g \equiv -1 \pmod{4}$  より、 $G$  は  $\Omega$  上 3-階次の置換群となる ( $\Omega$

の 3 個の元からなる任意の 2 つの部分集合  $A = \{a_1, a_2, a_3\},$

$B = \{b_1, b_2, b_3\}$  に対し、 $A^\sigma = B$  なる  $\sigma \in G$  が存在する) が、

これから自然に、次のように  $1 = 3$ -design が構成される：

任意の  $A \subset \Omega$ ,  $|A| = k \geq 3$  に対し、 $\Omega$  を点集合、 $A^G$  を blocks 集合として

$$\underline{D}(g, A) = (\Omega, A^G)$$

は  $3-(g+1, k, \lambda)$  design である。ここに

$$\lambda = |G : G_{(A)}| \binom{k}{3} / \binom{g+1}{3}.$$

(一般に、 $t$ -齊次の置換群から  $t$ -design が構成できる。 $t=3$  とえば、Lane [4] を参照)

問題：どんな  $g$  と  $A$  に対して、 $D(g, A)$  は興味ある design となるか？を考えよう。

$A = U_0$  のときは、次の結果を得る。

定理 1 (i)  $D(g, U_0)$  は  $3-(g+1, \frac{g+1}{2}, \frac{(g+1)(g-3)}{8})$  design であって、その blocks 集合は

$$U_0^G = \{ U_i \mid i \in F_g \} \cup \{ \bar{U}_i \mid i \in F_g \} \cup \{ U_i \Delta U_j (= \bar{U}_i \Delta \bar{U}_j) \mid i \neq j \in F_g \} \\ \cup \{ U_i \Delta \bar{U}_j (= \bar{U}_i \Delta U_j = \overline{U_i \Delta U_j}) \mid i \neq j \in F_g \}$$

である。(注.  $g=7$  のとき、 $D(7, U_0)$  は  $3-(8, 4, 1)$  design である。) 特に、 $D(g, U_0)$  が 4-design となるのは  $g=11$  のときのみで、実際

(ii) (Beth の定理 [1])  $D(11, U_0)$  は  $5-(12, 6, 1)$  design である。

証明の概略: (i) Frobenius 群の基本性質と  $G$  の部分群の表から  $G_{(U_0)} = G_{\infty, 0}$  がわかる, これより design  $D(g, U_0)$  のパラメータの値が求まる. 一方,  $G$  は上上の 2 重可移群よ,  $G = G_\infty \cup G_\infty \cap G_\infty$  ( $\tau: x \mapsto -\frac{1}{x}$ ) であるが, 次のことか容易に示される.

- $\sigma \in G_\infty, i \in F_g \Rightarrow U_i^\sigma = U_{i^\sigma}.$
- $U_0^\tau = \overline{U}_0.$
- $i \in Q \Rightarrow U_i^\tau = U_0 \Delta U_{i^\tau}.$
- $i \in F_g \setminus (\{0\} \cup Q) \Rightarrow U_i^\tau = \overline{U}_0 \Delta U_{i^\tau}.$

これらから blocks 集合  $U_0^G$  を書き上げることができる.

(ii)  $D(11, U_0)$  の blocks 集合を  $B = U_0^{\text{PSL}(2, 11)}$  とし,  $\Omega(11)$  の任意の 5 点集合  $T$  に対し,  $\lambda(T) = |\{B \in B \mid T \subset B\}|$  とおく.  $B$  の元 (= blocks) 同士の共通部分の濃度を調べ,  $\{(T, B) \mid T \subset \Omega(11), |T| = 5, T \subset B \in B\}$  を 2 通りにかぞえることによって,  $\lambda(T) = 1 (\forall T)$  を得る.

定理 1 が示すように,  $D(g, U_0)$  の blocks は,  $U_i, \overline{U}_i$  ( $i \in F_g$ ) の高々 2 つの  $\Delta$  による結合である. 次に, 3 個以

上の結合を考える。

$\mathbf{U}(g)$ :  $U_i, \bar{U}_i (i \in F_g)$  の  $\Delta$  による有限個の結合の全体  
 $= \{ U_i, \bar{U}_i, U_i \Delta U_j, U_i \Delta \bar{U}_j, U_i \Delta U_j \Delta U_k, \dots | i, j, k, \dots (+) \in F_g \}$ .

とすると、次を得る。

命題.  $A \in \mathbf{U}(g)$  とする。

- (i)  $|A| \equiv 0 \pmod{2}$
- (ii)  $g \equiv -1 \pmod{8} \Rightarrow |A| \equiv 0 \pmod{4}$ .
- (iii)  $g \equiv -1 \pmod{24} \Rightarrow 8 \leq |A|$ .

上の命題を証明する際、次の等式——自明な式  $|A \Delta B| = |A| + |B| - 2|A \cap B|$  の一般化——が有効である。

- $A_1, A_2, \dots, A_n (n \geq 2)$  を有限集合の部分集合とすると

$$\begin{aligned} |A_1 \Delta A_2 \Delta \dots \Delta A_n| &= \sum_{1 \leq i \leq n} |A_i| - 2 \cdot \sum_{1 \leq i_1 < i_2 \leq n} |A_{i_1} \cap A_{i_2}| \\ &\quad + 2^2 \cdot \sum_{1 \leq i_1 < i_2 < i_3 \leq n} |A_{i_1} \cap A_{i_2} \cap A_{i_3}| + \dots \\ &\quad + (-2)^{n-1} |A_1 \cap A_2 \cap \dots \cap A_n|. \end{aligned}$$

上の命題で、特に  $g = 23$  のときは

$$A \in \mathbf{U}(23) \Rightarrow |A| = 8, 12 \text{ or } 16$$

であるが、 $|A| = 8$  なる  $A$  として、たとえば

$$U_0 \Delta U_1 \Delta U_4 = \{0, 4, 13, 14, 18, 19, 20, 22\}$$

がある。定理 1 (ii) と同様を証明で次を得る。

定理 2.  $D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4)$  は  $5-(24, 8, 1)$  design である。

以上の大半は既に知られているようであるが、こうしてある意味で —  $D(g, A)$  に於て、適当な  $g$  と  $A$  をとることによって、あるいは対称差と群  $G$  を通じて — 統一的に、2つ の Mathieu-Witt systems

$$\underline{W_{12}} = D(11, U_0)$$

$$\underline{W_{24}} = D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4)$$

を構成することができた。

これらの systems および  $W_{11} = (W_{12})_\infty$ ,  $W_{23} = (W_{24})_\infty$  — 勿論,  $(W_i)_\infty$  は  $W_i$  から  $\infty$  をとり除いてできる design, 即ち, 点  $\infty$  に関する  $W_i$  の内部構造 — の全ての blocks を統一的・簡潔に記述するために, 差型または代表 blocks という概念を導入する。

以下,  $g = 11$  または  $23$  とし,  $\Omega(g)$  の元の間に

$$\infty < 0 < 1 < 2 < \cdots < g-1$$

という全順序を入れておくことにする。

定義  $\Omega(f)$  の部分集合

$$A = \{a_1, a_2, \dots, a_k\} \quad (a_1 < a_2 < \dots < a_k)$$

$i=1$  に対し, 次のような  $\tilde{A}$  を  $A$  の差型または差輪という:

$$\infty < a_1 \text{ なら } \tilde{A} = (a_2 - a_1, a_3 - a_2, \dots, a_k - a_{k-1}, a_1 - a_k)$$

$$= (a_3 - a_2, \dots, a_1 - a_k, a_2 - a_1) = \dots = (a_1 - a_k, a_2 - a_1, \dots, a_k - a_{k-1})$$

$$\infty = a_1 \text{ なら } \tilde{A} = (\infty, a_3 - a_2, a_4 - a_3, \dots, a_k - a_{k-1}, a_2 - a_k)$$

$$= (\infty, a_4 - a_3, \dots, a_2 - a_k, a_3 - a_2) = \dots = (\infty, a_2 - a_k, a_3 - a_2, \dots, a_k - a_{k-1})$$

また,  $i = 11, 12, 23, 24$  として

$$\widetilde{W}_i = \{\tilde{B} \mid B : W_i \text{ の block}\}$$

を  $W_i$  の差型または差輪とよぶ。 $d \in \widetilde{W}_i$  に対し,  $\tilde{B} = d$

なる  $W_i$  の任意の block  $B$  を 1 つ定めておき, それを差型  $d$  に対応する代表 block ということにする。

すぐ分るようには,  $A, B$  を  $W_i$  の blocks とするとき,

$$\tilde{A} = \tilde{B} \quad (A, B \text{ は同一の差型をもつ})$$

$$\Leftrightarrow \exists c \in F_q; A = B + c \quad (A, B \text{ は } F_q \text{ の元 } i \text{ による平行移動で互いにうつることができる})$$

定理 3. (i)  $W_i (i = 11, 12, 23, 24)$  の差型と代表 blocks は次の表のとおりである。

	Difference pattern	Representative blocks	Number
$W_{12}$	( $\infty, 1, 1, 6, 2$ ), ( $\infty, 1, 1, 2, 3, 4$ ), ( $\infty, 1, 1, 3, 1, 5$ ); ( $\infty, 1, 2, 1, 4, 3$ ), ( $\infty, 1, 2, 2, 2, 4$ ), ( $\infty, 1, 3, 2, 3, 2$ ); ( $1, 1, 1, 2, 5$ ), ( $1, 1, 1, 4, 1, 3$ ), ( $1, 1, 2, 1, 3, 3$ ); ( $1, 1, 3, 2, 2, 2$ ), ( $1, 1, 4, 2, 1, 2$ ), ( $1, 2, 2, 1, 2, 3$ ).	{ $\infty, 0, 1, 2, 3, 9$ }, { $\infty, 0, 1, 2, 4, 7$ }, { $\infty, 0, 1, 2, 5, 6$ }, { $\infty, 0, 1, 3, 4, 8$ }, { $\infty, 0, 1, 3, 5, 7$ }, { $\infty, 0, 1, 4, 6, 9$ }; { $0, 1, 2, 3, 4, 6$ }, { $0, 1, 2, 3, 7, 8$ }, { $0, 1, 2, 4, 5, 8$ }; { $0, 1, 2, 5, 7, 9$ }, { $0, 1, 2, 6, 8, 9$ }, { $0, 1, 3, 5, 6, 8$ }.	12
$W_{11}$	( $1, 1, 1, 6, 2$ ), ( $1, 1, 2, 3, 4$ ), ( $1, 1, 3, 1, 5$ ), ( $1, 2, 1, 4, 3$ ), ( $1, 2, 2, 2, 4$ ), ( $1, 3, 2, 3, 2$ )	{ $0, 1, 2, 3, 9$ }, { $0, 1, 2, 4, 7$ }, { $0, 1, 2, 5, 6$ }, { $0, 1, 3, 4, 8$ }, { $0, 1, 3, 5, 7$ }, { $0, 1, 4, 6, 9$ }.	6
$W_{24}$	( $\infty, 1, 1, 1, 2, 9, 3, 6$ ), ( $\infty, 1, 1, 4, 1, 12, 2, 2$ ), ( $\infty, 1, 1, 6, 3, 1, 6, 5$ ) ( $\infty, 1, 1, 7, 1, 5, 5, 3$ ), ( $\infty, 1, 2, 1, 7, 8, 1, 3$ ), ( $\infty, 1, 2, 3, 2, 2, 3, 10$ ), ( $\infty, 1, 2, 4, 2, 7, 2, 5$ ), ( $\infty, 1, 3, 2, 3, 3, 5, 6$ ), ( $\infty, 1, 3, 6, 4, 4, 3, 2$ ), ( $\infty, 1, 4, 4, 2, 2, 8, 2$ ), ( $\infty, 1, 4, 5, 2, 4, 3, 4$ ); ( $1, 1, 1, 1, 3, 3, 2, 11$ ), ( $1, 1, 1, 5, 7, 1, 3, 4$ ), ( $1, 1, 1, 10, 5, 2, 1, 2$ ), ( $1, 1, 2, 1, 4, 9, 1, 4$ ), ( $1, 1, 2, 2, 2, 6, 6, 3$ ), ( $1, 1, 2, 7, 4, 2, 4, 2$ ), ( $1, 1, 3, 1, 6, 1, 2, 8$ ), ( $1, 1, 3, 2, 4, 5, 4, 3$ ), ( $1, 1, 4, 4, 6, 1, 1, 5$ ), ( $1, 1, 7, 3, 2, 2, 5, 2$ ), ( $1, 1, 8, 1, 2, 1, 5, 4$ ), ( $1, 2, 2, 3, 1, 3, 8, 3$ ), ( $1, 2, 2, 5, 1, 4, 3, 5$ ), ( $1, 2, 3, 1, 8, 2, 3, 3$ ), ( $1, 2, 3, 6, 2, 4, 1, 4$ ), ( $1, 2, 4, 1, 3, 3, 7, 2$ ), ( $1, 2, 6, 1, 7, 2, 2, 2$ ), ( $1, 3, 1, 5, 3, 4, 3, 3$ ), ( $1, 3, 2, 1, 4, 2, 5, 5$ ), ( $1, 3, 4, 4, 1, 6, 2, 2$ ), ( $1, 5, 2, 1, 6, 3, 3, 2$ ), ( $2, 2, 4, 2, 3, 2, 3, 5$ ).	{ $\infty, 0, 1, 2, 3, 5, 14, 17$ }, { $\infty, 0, 1, 2, 6, 7, 19, 21$ }, { $\infty, 0, 1, 2, 8, 11, 12, 18$ }, { $\infty, 0, 1, 2, 9, 10, 15, 20$ }, { $\infty, 0, 1, 3, 4, 11, 19, 20$ }, { $\infty, 0, 1, 3, 6, 8, 10, 13$ }, { $\infty, 0, 1, 3, 7, 9, 16, 18$ }, { $\infty, 0, 1, 4, 6, 9, 12, 17$ }, { $\infty, 0, 1, 4, 10, 14, 18, 21$ }, { $\infty, 0, 1, 5, 9, 11, 13, 21$ }, { $\infty, 0, 1, 5, 10, 12, 16, 19$ }.	33
$W_{23}$	$W_{12} = D(11, U_0)$ , $W_{11} = (W_{12})^\infty$ ; $W_{24} = D(23, U_0 \cup U_1 \cup U_4)$ , $W_{23} = (W_{24})^\infty$ .	All the blocks of $W_{12}$ , $W_{11}$ (respe., $W_{24}$ , $W_{23}$ ) are obtained by translating the representative blocks by all elements of $F_{11}$ (resp., $F_{23}$ ).	11

(ii)  $W_{12}, W_{11}$  ( $W_{24}, W_{23}$ ) の全ての blocks は、代表 blocks を  $F_{11}$  ( $F_{23}$ ) の元で平行移動することによって得られる。(たとえば、 $W_{24}$  の  $759 = 33 \cdot 23$  個の全 blocks は、33 個の代表 blocks を  $F_{23}$  の元で平行移動して得られる。)

証明は、 $W_{12}$  と  $W_{24}$  の差型を直接計算で出すだけである。  
たとえば、 $W_{24}$  の場合、

$$U = U_0 \cup U_1 \cup U_4, \quad G = PSL(2, 23) \ni \tau : x \mapsto -\frac{1}{x}$$

とすると、直接計算によって

$$W_{24} \text{ の blocks 集合 } = U^G = \{ aU + b, a(U+b)^{\tau} + c \mid a \in Q; b, c \in F_{23} \},$$

$$\widetilde{W}_{24} = \{ \widetilde{aU}, \widetilde{aU^{\tau}}, \widetilde{a(U+b)^{\tau}} \mid a \in Q \}.$$

この  $\widetilde{W}_{24}$  の元を具体的に書き表したのが定理 3 の表における  $W_{24}$  の差型である。差型から代表 blocks は直ちに求まる。また、 $\widetilde{W}_{24}$  の表の中で  $\infty$  を含む 11 個のものから  $\infty$  をとり除けば  $\widetilde{W}_{23}$  が得られる。

### 差型の利点と応用

①. 定理 3 で見たように、差型あるいは代表 blocks は、Mathieu-Witt systems  $W_{24}, W_{23}, W_{12}, W_{11}$  の全ての blocks をある意味で統一的に記述する簡単な方法を与えて

いるといえる。(注.  $W_{22} = (W_{23})_0$  はやや異質である。

$|\tilde{W}_{22}| = 77 = W_{22}$  の blocks の個数で,  $W_{22}$  の差型は無意味である。しかし,  $W_{22}$  の全ての blocks も,  $W_{23}$  の 11 個の代表 blocks を  $F_{23}$  の適当な 7 個の元で平行移動すれば得られる。)

次の 2, 3 は  $W_{24}$  について述べるが, 他の  $W_i$  でも同様になりたつ。

②  $\Omega(23)$  の 8 点集合  $A$  が  $W_{24}$  の block かどうかの判定:

$$A : W_{24} \text{ の block} \Leftrightarrow \tilde{A} \in \tilde{W}_{24}$$

たとえば,  $A = \{\infty, 0, 1, 3, 12, 15, 21, 22\}$  とすると,

$$\tilde{A} = (\infty, 1, 2, 9, 3, 6, 1, 1) = (\infty, 1, 1, 1, 2, 9, 3, 6) \in \tilde{W}_{24}$$

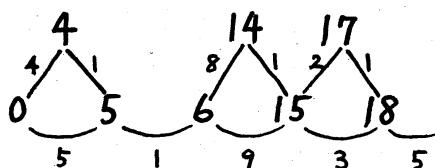
よし,  $A$  は  $W_{24}$  の block である。

③. 与えられた 5 点を含む  $W_{24}$  の unique block の見つけ方: たとえば,  $\Omega(23)$  の与えられた 5 点を  $A = \{0, 5, 6, 15, 18\}$  とする。 $W_{24}$  の差型表から, その適当な部分和が

$$\tilde{A} = (5, 1, 9, 3, 5) \text{ であるような差型を探すと, ただ 1 つ}$$

の差型  $(\underbrace{1, 1, 8}_{5}, \underbrace{1, 2, 1}_{9}, \underbrace{5, 4}_{3})$

が見つかる。従って, 求める block は



即ち,  $\{0, 4, 5, 6, 14, 15, 17, 18\}$ .

なお、近藤武先生は、与えられた  $s (\leq 5)$  個の点を含む全ての blocks を直ちに見つけるパソコンのプログラムを作って下さった。

最後に、2, 3 の注意をつけ加える。

(1)これまでの全ての議論に於て、 $U_i = \{i\} \cup Q_i$  の代りに  $V_i = \{\infty\} \cup Q_i$  を用いても全く同様のことになりたち、

$$D(g, U_0) \cong D(f, V_0); \quad D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4) \cong D(23, V_0 \Delta V_1 \Delta V_4)$$

(design として同型) である。Todd [5] に出てる  $W_{24}$  の blocks の表や Curtis [2] の MOG によるものは、上の定理 3 (ii) による blocks の表 ( $D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4)$ ) と一致している。

また、 $D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4)$  と  $D(23, V_0 \Delta V_1 \Delta V_4)$  の差型とは逆回りである :  $(d_1, d_2, \dots, d_8) \in \overline{D(23, U_0 \Delta U_1 \Delta U_4)}$

$$\Leftrightarrow (d_8, \dots, d_2, d_1) \in \overline{D(23, V_0 \Delta V_1 \Delta V_4)}.$$

(2) 定理 1(i) の証明では、Frobenius 群の基本性質と  $G = PSL(2, g)$  の部分群の表を用いたが、その他の全ての議論は全く初等的である。特に、定理 1(ii), 定理 2, 3 の証明は完全に初等的である。

(3) Curtis の MOG [2] も差型も、その正体が私にはまだよく分らないが、差型に現われる数列はどのような規則で並んでいるのだろうか？ MOG や差型を決定ないしは

controlしている、より本質的な何かがあるのだろうか？

本稿の詳しい内容は [3] を参照されたい。

### 参考文献

- [1] T. Beth: Some remarks on D. R. Hughes' construction of  $M_{12}$  and its associated designs, in "Finite geometries and designs", London Math. Soc. Lect. Note Ser. 49, 22-30, Camb. Univ. Press, 1981.
- [2] R.T. Curtis: A new combinatorial approach to  $M_{24}$ , Math. Proc. Camb. Phil. Soc. 79 (1976), 25-42.
- [3] S. Iwasaki: An elementary and unified approach to the Mathieu-Witt systems, to appear.
- [4] R.N. Lane:  $t$ -designs and  $t$ -ply homogeneous groups, J. Comb. Th. 10 (1971), 106-118.
- [5] J.A. Todd: A representation of The Mathieu group  $M_{24}$  as a collineation group, Ann. di Math. Pura. ed. Appl. 71 (1966), 199-238.